

大麦栽培管理情報（第1号）

平成30年9月
アルプス農協管内農業技術者協議会

H30年産の大麦は、播種が遅れ、初期生育が確保できずに、収量は少なくなりました。**排水対策を徹底し、10月上旬までの適期播種**を行い、高収量で高品質な大麦の生産を目指しましょう！



目指せ!! 単収 400 kg/10a

1 圃場準備(排水対策の徹底)

大麦は生育期間を通して湿害に弱いため、排水対策や碎土率の良し悪しが、その後の生育に大きく影響し、苗立不足は減収の原因となります。

稲刈直後から次の排水対策を確実に実施し、速やかに圃場を乾かしましょう。

排水対策のポイント ～大麦作付予定圃場は速やかに排水対策を行う！！～

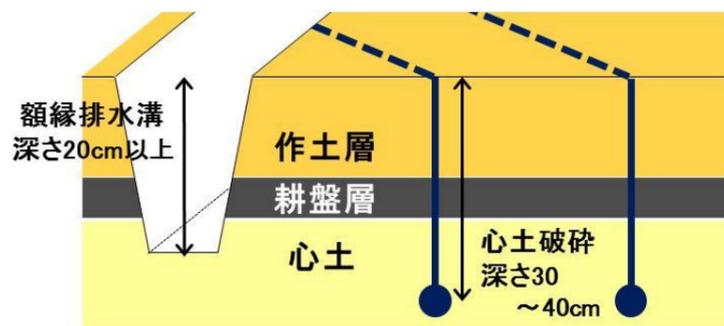
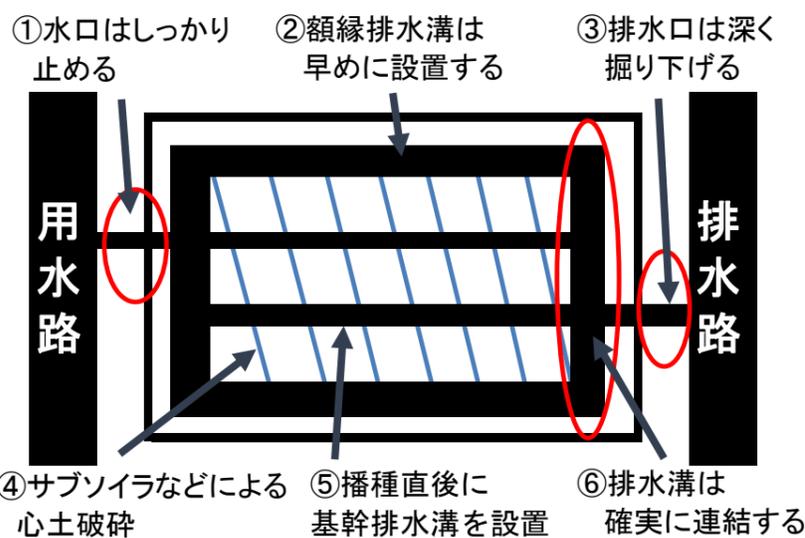
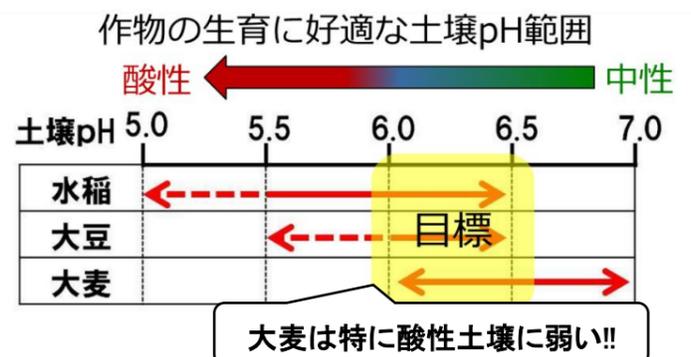


図 心土破碎と排水溝の設置

2 土づくりの実践

土づくりのポイント ～大麦は酸性土壌に弱いので必ず粒状貝化石を散布する！！

- 石灰質資材の施用で土壌 pH 6.0 以上を確保する。
- 堆肥等の有機物を積極的に施用する。
- 根域を確保するため、15cm 以上の深耕を徹底する。



■ 施用量の目安

施用目的	資材名	10a当たり施用量	備考
酸度矯正	粒状貝化石	150～200kg	土壌診断の結果、酸性が強い場合は多めに施用
地力増強	発酵鶏ふん	100～150kg	

3 種子準備～播種

(1) 種子の準備

種子更新を徹底するとともに、病害の発生を防止するため、**必ず種子消毒を実施**しましょう。

消毒方法	処理方法
薬剤処理	乾燥種子 10kg 当たり ベンレート Tコート 50g を均一に粉衣
循環式催芽器による温湯浸法	45°Cの温湯に入れ、2時間 30分浸漬 (浸漬時間厳守)



播種は9月26日から計画的に行い、10月上旬までに播き終えましょう！！

(2) 耕起～播種

- ・ 碎土率向上による出芽・苗立ちの安定のため、耕起作業は、土の乾きを確認してから実施するとともに、耕起～播種・作溝までの一連の作業を1日で行いましょう。
- ・ 畦幅は3m以内とし、幅が30cm、深さが20cm以上のしっかりした溝を設置するとともに、排水口に確実に連結しましょう。
- ・ ドリル播きの場合、湿害を避け出芽・苗立ちを揃えるため、播種深度が3cm程度となるように調整しましょう。
- ・ 目標の苗立本数を確保するため、播種の時期や方法に応じた適正な播種量を厳守するとともに播種作業は、10月上旬までに行いましょう。
- ・ 施肥方法に応じて的確に基肥を施用しましょう。

碎土率40%以下



碎土率が低いと出芽・苗立ちが不安定になり、揃いが悪い

碎土率60%以上



碎土率が高いと出芽・苗立ちが安定し、揃いが良い

【播種の時期と量の目安】

播種時期	目標苗立数 (㎡当たり)	播種量の目安 (10a 当たり)	
		ドリル播	表面散播
9/26～30	140本	6.0kg	6.5kg
10/上旬	150本	6.5kg	7.0kg
(10/中旬)	(200本)	(8.5kg)	(9.0kg)

■ 施用量の目安

施用目的		資材名	10a 当たり施用量	備考
基肥	一発	LP大麦48号	45kg	原則、追肥は不要
	分施	ハイマックス燐加安 444	40kg	

4 播種後の雑草防除

雑草が多発すると肥料成分が雑草に奪われ、大麦の生育に影響が出るとともに、病害発生の原因にもなります。

除草剤を的確に使用し、生育量を確保しましょう。

<除草剤を使用した圃場>



<除草剤を使用していない圃場>



【除草剤の使用時期と量の目安】

除草剤名	使用時期	10a 当たり散布量	使用方法	適用雑草
トレファノサイド乳剤	播種後発芽前 (雑草発生前)	300mℓ (希釈水量 100ℓ)	土壌表面 散布	一年生雑草 (ツクサ、カヤツリグサ、 キク、アブラナ科を除く)
トレファノサイド粒剤 2.5	播種後発芽前	4～5kg		一年生雑草
ボクサー	播種後～麦2葉期 (雑草発生前～ 雑草発生始期)	500mℓ (希釈水量 100ℓ)		

(注) 表面散播した圃場では使用しない

除草剤使用上の留意点

- ・ 土壌が極端に乾いていると効果が劣るので土壌水分が適正な時に散布する。
- ・ 散布直後に大雨にあうと薬害のおそれがあるので、天候を見極めて散布する。
- ・ 種子が露出していると薬害のおそれがあるので、碎土率を高めるとともに、播種深度3cm程度を目安に、確実に覆土するよう注意する。